

【政務活動報告書（県内）】

年月日	活動先		対応者	政務活動の内容	関連領収書 番号
	住所	活動先の名称			
29,11,1	南部町法勝寺70	協同組合レングス	代表理事 中西泰夫	CLTについて調査	3-16
29,11,1	米子市祇園町2-13	デジタルハリウッドSTUDIO 米子	(有)クレイド事業開発室長 高林務	IT人材育成についての研究	3-16
29,11,2	倉吉市関金町大鳥居123 8	鳥取県立農業大学校	校長 小林智子	農大の視察	3-16
29,11,2	北栄町由良宿2048	鳥取県園芸試験場	野菜研究室長 森本康史 花き研究室長 岸本真幸 果樹研究室主任研究員 岡垣菜美	園芸試験場の視察	3-16

県内政務活動に要する交通費（JR等運賃、タクシー代）及び宿泊費を充当する場合に記載すること。

政 務 活 動 報 告 書

活 動 事 項	北朝鮮拉致被害者救済のための国民大集会
活 動 年 月 日	平成 2 9 年 4 月 2 3 日
場 所	東京都千代田区平河町 2 - 7 - 4 砂防会館
活 動 の 相 手 方	北朝鮮拉致被害者のご家族、特定失踪者のご家族
目 的 ・ 内 容 ・ 結 果 等	<p>【目的】 北朝鮮に拉致された方々の一日も早い帰国を願う決起集会</p> <p>【内容】 ①安部総理大臣の挨拶 ②拉致問題担当大臣、関係者の意見発表 ③拉致被害者や特定失踪者ご家族の方々の訴え</p> <p>【結果等】 ・人道上許されないことで、拉致被害者やご家族の心中を察するに一日も早い帰国を強く願う。 ・安倍総理の「日本が主体的に解決しなければならない」との挨拶や「もう待てない。年内に帰国を」という家族の訴えが心に残った。</p>
関 連 領 収 書 番 号	3 - 1 4

政 務 活 動 報 告 書

活動事項	【会派希望 行政視察】 1、県と大学、企業の連携によるICTを使った農業の推進について 2、放置竹林対策について、伐採した竹の活用について
活動年月日	平成29年5月9日(火)～11日(木)
場 所	① 佐賀県庁 佐賀市城内 1-1-59 ② 佐賀県農業試験研究センター 佐賀市川副町南里 1088 ③ 立花バンブー(株) 佐賀県立花町兼松 752-1 ④ 九州工業大学 佐賀県立花町上辺春 476 ⑤ 広島県庁 広島市中区基町 10-52 ⑥ マルキン水産 東広島市 安芸津町三津 5789-67
活動の相手方	① 佐賀県知事 山口祥義 佐賀県農林水産部農政企画課 副課長 犬走剛 〃 主査 宮崎悠太 〃 技術監 金澤智寿子 佐賀県農業試験研究センター 所長 田崎博文 〃 副所長 広田雄二 〃 企画整備部長 重富修 〃 企画調整研究担当 八田聡 ㈱オプティム 九州エリアマネジャー 長沼俊介 ② 立花バンブー(株) 総務部長 梅野資洋 八女市役所農業委員会事務局長 牛島憲治 八女市建設経済部林業振興課 新産業創出係長 古庄茂幸 竹林活用アドバイザー 野中重之 ③ 九州工業大学大学院 生命体工学研究科 教授 西田治男 ㈱バンブーテクノ 社長 田中禮助 〃 副社長 中村一範 〃 研究員 山城恵作 ④ 広島県農林水産局水産課 課長 宮林豊 〃 水産技術担当監 木村淳 〃 水産技術指導担当技師 中森三智 広島県農林水産局林業家 木材生産グループ主査 小谷美紀 ⑤ マルキン水産 陸工業(株) 代表取締役 浅田満
目的・内容 ・結果等	【目的】 ① 農業におけるICTの活用についてどこまで実現できているのかを調査するため。 ② 伐採した放置竹林の竹の活用法を研究するため

	<p>【内容】</p> <p>① 佐賀県は㈱オプティムと佐賀大学と三者連携協定締結し、「楽しく、かっこよく稼げる農業の実現」を目指し、AI・IOT・ビッグデータを活用したスマート農業の研究を進めている。</p> <p>これからの農業は、生産性を向上させ、就農者の収入を増やすなど、魅力ある農業としていく必要があるが、それを実現するため、AI, ICT, ロボット等の先進技術の導入は避けられない。実際のスマート農業はどこまで実現できているのか、県がどのように取り組むのか担当者から聞いた。</p> <p>② 放置竹林を地域のボランティア等による伐採支援は我が県でも行っているが、根本的に放置竹林に取り組むためにはボランティアではなく経済的に循環する事業として行う必要があり、それには伐った竹を有効に活用することが必要である。</p> <p>八女市にある㈱立花バンブーは市（旧立花町）とJAと森林組合が伐った竹の有効活用を目的に立ち上げた会社である。</p> <p>主に竹炭を製造している。原料となる竹は、筍農家等が伐ったものを安く買い上げるなど、原料コストがかからない仕組みになっている。</p> <p>九州工大と㈱バンブーテクノは竹粉を混ぜてプラスチックを強化する技術の実用化を目指している。技術自体は確かなもののようにだが、それを使ってできる最終商品がコストに見合うかどうか大きな課題となっていた。</p> <p>広島県では、放置竹林対策についてレクチャーを受けた後、牡蠣の養殖業者と牡蠣殻製造業者から話を聞いた。</p> <p>牡蠣殻の材料竹は、九州産のものが多いが、強度があまりないため少しコストが上がっても強度のある材がほしいということだった。山陰の竹は九州産より牡蠣殻に適しているとのことだが、規格に合う竹が十分に供給できるのかどうか、伐採と運搬費用が製造業者の提示価格に見合うかどうか大きな課題であった。</p> <p>【結果等】</p> <p>① 大学、県、民間企業の連携を図り、佐賀県農業の特性を生かし、課題を克服しようとする取組みが参考となった。</p> <p>② 放置竹林から竹を活用した産業を創出するための技術開発やプロジェクト事業の紹介があったが、一朝一夕にできるものでもなく、行政のリーダーシップの下、民間も巻き込んで取り組む必要があると痛感した。</p> <p>③ この調査結果を、県議会で質問、提案していきたい。</p>
<p>関連領収書番号</p>	<p>3-16</p>

政 務 活 動 報 告 書

活動事項	① 島根原子力発電所の視察 ② 山陰合同銀行の地域貢献活動について ③ J R西日本の地域貢献活動について
活動年月日	平成29年7月4日(火)～7月5日(水)
場 所	① 島根原子力発電所 ② 山陰合同銀行本店 ③ J R西日本米子支社
活動の相手方	① 中国電力(株)取締役執行役員電源事業本部副本部長 芦谷茂 // 執行役員 鳥取支社長 天野浩一 // 鳥取支社 副支社長 村上浩美 // 鳥取支社 副支社長 山田純司 ② 山陰合同銀行 頭取 石丸文男 // 取締役 専務執行役員 浅野裕好 // 常務執行役員 今若康浩 // 地域振興G副調査役 地方創生推進PT 井上光悦 ③ 西日本旅客鉄道(株) 執行役員米子支社長山陰地域振興本部長 梅谷泰郎 米子支社山陰地域振興本部副本部長 和田昇司 米子支社山陰地域振興本部課長 木内吾平
目的・内容 ・結果等	【目的】 ① 島根原発の現状を知る ② 地方の金融機関が地方創生に果たす役割を知る ③ J R西日本の地域振興の取り組みを知る 【内容】 ① 島根原発の見学と担当者の説明を聞く ② 山陰合同銀行の地方創生に向けての取り組みの説明を聞く ③ J R西日本の地域振興についての説明を聞く 【結果等】 ① 島根原発の1号機の廃炉、2号機の再稼動、3号機の新設について知ることができた。 ② 地方創生に地方の金融機関が果たす役割について意見交換できた。 ③ J R西日本の地域振興への取り組みを知ることができた。
関連領収書番号	3-16